

個人的な経験ですが、震災の翌日、台北の研究者から SOS のメールが入りました。友人のアメリカ人青年が、仙台市の隣の大崎市古川の中学校・高等学校で教えているが、地震直後に短い携帯電話の連絡があったきり、連絡が途絶え、ワシントンの母親が非常に心配している、というのです。私は「パーソン・ファインダー」というのを使って、彼に安否を訊ね、連絡を取るように伝えました。携帯電話の充電ができず、連絡が取れずにいたことが判明しました。孤立した学校にはたくさんの生徒が残り、彼はその世話を続けているが、電力、水、食料、医薬品がないと援けを求めてきたというので、私はそのことを仙台市の危機管理局にメールで伝えました。また、大崎市は海岸から 30km は離れているので、津波の心配はないと、安心させてあげることができました。離れた被災地に向かって何もできないと嘆きかけていた老人が、いつもお世話になっているメールで国際的なつながりをつくり、多少のお役に立つことができました。

<歴史的な、縦のつながり>

アジ歴のホームページで急ぎ「関東大震災」を検索してみました。「辞書」の関連語に「戒厳令」が指定されていることもあり、検索される文書は戒厳令に関係するものが多いのですが、まず大正 12 年 9 月 2 日に出された戒厳令の御署名原本を見ることができます。行政府の中樞でどのように危機対応がなされるか、さらには、日本社会の意思決定や組織特性など、現在の問題点を知るために、歴史文書を見るが大いに参考になります。「災害と公文書」を検討し直す必要もありますが、アジ歴はそのお役に立てると思います。

もう一点、歴史との対比でいいますと、今回の災害で新しく重大な要因として登場しているのが電力とコンピューターです。この二つがダウンすれば、高度に発展した現代社会はたちまち立ち往生することが明白に示されました。今回のアジ歴のささやかな幸運から提言させていただくと、コンピューターのサーバーは、水害の及ばない、頑丈なフロアーに設置されるべきであることはもちろん、緊急時の予備電源の備えには万全の上にも万全を期さなければなりません。「フェイルセーフ」はおざなりでなく、とことん追求すべきです。

<アジ歴の役割>

デジタル・アーカイブであるアジ歴は、コンピューターによって、ヨコの空間的なつながり（国際的なつながり）とタテの歴史的なつながりの交点に成り立っています。今ほどそのことを痛切に感じるときはありません。これからもそのような事業として、歴史を鑑とする皆様のお役に立ち続けたいと思います。

◇編集後記

アジ歴ニューズレター第 2 号をご愛読くださりありがとうございました。また、今次の震災後、国内外からご心配と激励を下さいました皆様に感謝申し上げます。次号は 7 月中旬にお届けします。今後も皆様にお役に立てる情報をお届けできるよう精進しますので、皆様のご意見・ご感想などございましたら、当センターまでお寄せ願います。

★本メールは、アジ歴職員に名刺を頂戴した皆様にお送りしています。

★配信をご希望されない方は、お手数ですが配信元までお知らせください。

★アジ歴ホームページ：<http://www.jacar.go.jp/>



独立行政法人国立公文書館アジア歴史資料センター

〒102-0093

東京都千代田区平河町 2-1-2

住友半蔵門ビル 別館 4階

tel: 03-3556-8801 (代表)

